

今日から備える
風水害から
命を守る行動

近年、風水害のニュースで度々耳にする「命を守る行動を」。いざというときに、慌てないためにも、普段の生活の中で考え、備えておくことが重要です。新しくなったハザードマップと共に、防災の知識と備えをアップデートしましょう。

☎ 066055
危機管理室／Tel674-7314
下水河川企画課／Tel674-7432(ハザードマップ)



命を守る行動
ってなんだろう？

01 生活圏の災害リスクを知っている

自宅はもちろん、学校や職場、その経路など、各家庭の生活圏でどんな災害リスクがあるかを知りましょう。



ハザードマップ×予習



今日から始める対策

- 生活圏の災害リスクを予習
 - マップの使い方を知る
 - 家族で共有する
- 16・17ページで紹介

防災の観点で考える「命を守る行動」とは「身に起こるであろう危険を想定し対策を立てる」ことです。

一人一人が「命を守る行動」を取れるようになるために、下記の3つのポイントで今日から始める対策をご紹介します。



02 状況に応じた避難判断ができる

風水害は状況が刻々と変化します。状況に応じて判断し、避難行動が取れるようになりましょう。



避難情報×判断

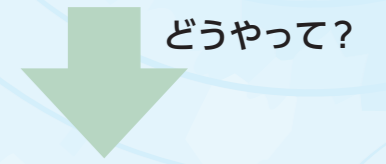


今日から始める対策

- 防災気象情報の種類を知る
 - 避難情報の内容を理解する
 - 我が家の避難行動を考える
- 18・19ページで紹介

03 避難のための備えがある

避難行動に必要なものは？最新の防災情報を入手できるようにしたり、防災物品を備蓄したりしましょう。



備蓄×情報収集



今日から始める対策

- 避難行動に必要な防災物品を準備する
 - 情報の集め方を知る
- 20ページで紹介

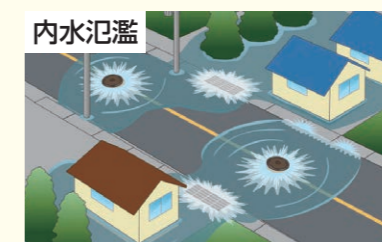
市内で想定されるのは
水害と土砂災害

市内で主に想定される風水害は、台風や大雨による水害と土砂災害です。水害は、市内に影響のある6つの河川流域を中心に広範囲の浸水被害が想定されています。

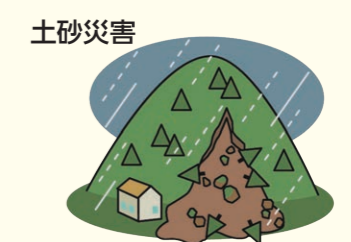
土砂災害は、JR高槻駅より北部の住宅地と北部山間地域を中心に被害が想定されています。



河川が増水し、堤防が決壊するなどして、街の外から流入して浸水する水害。過去に本日も、甚大な被害を受けてきました。



短時間に集中して街の中に降った大雨を水路や下水道で流しきれず、マンホールや側溝からあふれて住宅地や道路などが冠水する水害。



大雨や台風、地震によって地盤がゆるむことで、がけ崩れ、土石流、地すべりといった土砂災害が起きます。

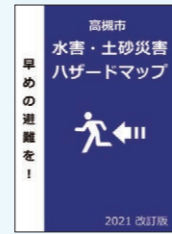
01 ハザードマップ×予習

浸水の危険がある
区域が広がったよ

6月中に改訂版を全戸配布

水防法の改正を受けて、令和8年3月に国が新たに芥川の浸水想定区域を公表しました。市はこれらを踏まえ、水害・土砂災害ハザードマップ（以下ハザードマップ）を4月に改訂。冊子を6月中に市内全世帯に順次お届けします。ハザードマップを使って災害リスクを事前に予習し、災害時に備えましょう。

ID 004004



表紙デザインを一新しました



下水河川企画課 中村太星さん

地図が別冊になって分かりやすく

改訂版ハザードマップは、情報を集約した冊子本体と大判マップ*3枚（別冊）をセットにして配布します。地図が別冊になり、避難先を即座に把握できて、河川別の浸水リスクを判別しやすくなりました。
※6つの河川の浸水想定ほかに、6河川の浸水エリアを重ね合わせた図と内水氾濫の浸水想定区域図の計6種類

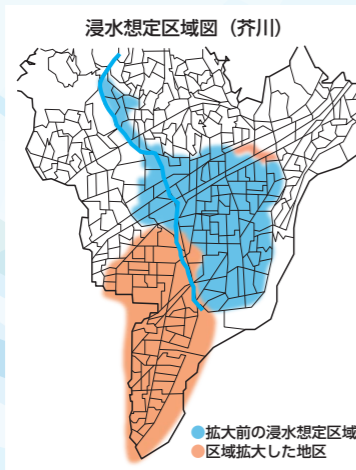


新しいハザードマップの変更ポイント

①外水氾濫の浸水想定が拡大 該当地域では避難場所が変更

国において、芥川下流部（城西橋以南）が氾濫した場合の浸水想定区域図が新たに公表され、市南部の浸水想定などが見直されました。浸水想定が拡大した区域では緊急避難場所と台風等初期避難場所が一部変更になりました。変更後の避難場所をハザードマップや市ホームページで確認してください（冊子21～24ページ）。

ID 001130



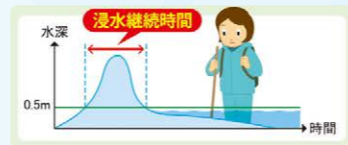
②内水氾濫の浸水想定区域も変更

浸水被害のシミュレーションに使用する降雨条件

をこれまでの1時間あたり110mmから想定最大規模の147mmに変更。浸水想定区域が変わっていますので、改めて浸水リスクを確認してください。

③浸水継続時間の情報が追加

浸水の深さが50cmを超えてから、再び50cmより浅くなるまでにかかる時間を示す「浸水継続時間」の情報をハザードマップに追加しました（冊子10～14ページ）。



④避難情報発令対象地域が早見表に

町名ごとに発令が予測される避難情報（外水氾濫*と土砂災害）を整理した早見表（冊子26～28ページ）を新たに作成。居住地と関連付けて災害リスクを把握しやすくなりました。

*発令は、想定浸水深が50cm以上または河岸侵食が氾濫の危険がある地域が対象。対象外の地域でも50cm未満の浸水は想定される場合があります。大判マップで確認してください

使ってみようハザードマップ

STEP1 危険性を知る

ハザードマップ（冊子9～16ページ）には、外水氾濫、内水氾濫、土砂災害のおそれがある区域を示した地図を掲載。まずは自分の住む地域、通勤・通学先などの災害リスクを確認しましょう。

STEP2 大判マップに書き込む

大判マップを使って、自宅周辺で河川が氾濫した際の河川ごとの浸水リスクをより詳しく確認しましょう。次に、右記の3つの手順に従って、避難場所や自宅のリスクを確認し、地図に書き込みましょう。情報を家族で共有することで、家庭全体の防災意識が高まります。



大判マップの使い方

- 手順1 自宅や学校など生活圏の場所を確認（河川6種類全て）
- 手順2 手順1で確認した場所に最も近い避難場所を確認する
- 手順3 河川が氾濫したときの自宅のリスクなどを書き込む
避難するときは、どんなルートで避難すれば安全か事前に考えておくことも重要です

高槻市 洪水ハザードマップ 芥川 外水はん濫

このマップでは、10円玉を使って、おおよその距離や歩行時間を確認できます。

10円玉を使って避難に要する時間や距離が確認できる

自宅の浸水リスクや避難時の注意すべき場所を書き込む欄

マップ内の色付けや記号の意味をチェック

避難場所や防災関連の情報をチェック

「当初開設する避難場所」へまずは避難を

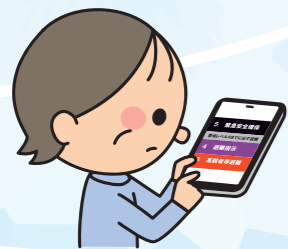
凡例

避難場所一覧（芥川）

避難情報の発令とみなさんが取るべき行動

02 避難情報 × 判断

防災気象情報の名称が
5/29に変わったよ



情報を理解して自分で判断できるように

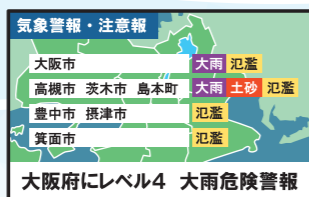
ハザードマップで地域のリスクや避難場所を理解したら、次は、風水害に関する情報を正しく理解できるようになります。
風水害に関する情報には、主に防災気象情報と避難情報があります。災害状況は刻々と変化していきますので、情報を正しく理解し、自分事として、状況に応じた判断ができることが重要です。

防災気象情報とは？

気象庁が国民や自治体に向けて発信。

予測される気象上の警戒情報を広く伝えるもの

気象庁などが台風や大雨、地震などの自然災害による被害を軽減するため、危険度や今後の見通しを迅速かつ正確に伝え、国民の適切な行動や事前の備えを促す情報です。



ニュースでは「対象地域」「水害の種類」「警戒レベル」などの情報がまとめられ報道されています。左図は一例です。



気象庁が会見を開き、国民に呼びかけることも

レベル表記に名称が見直された新しい気象情報が5/29に運用開始

警報・注意報の名称に「レベル」が付記され、避難行動の目安（次ページ表）が明確になりました。

また、従来の「洪水警報」は廃止され、淀川と安威川は「レベル3氾濫警報」、その他の河川は「レベル3大雨警報」として発表されます。

新たにレベル4相当の情報が「危険警報」として発表されることになりました。

新しい警報・注意報の情報名 一覧表

	河川氾濫 (1級河川など大河川)	大雨 (浸水や大河川以外)	土砂災害 (がけ崩れや土石流)
警戒レベル5相当 (特別警報)	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 大雨特別警報	レベル5 土砂災害特別警報
災害発生または切迫している状況			
警戒レベル4相当 (危険警報)	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 大雨危険警報	レベル4 土砂災害危険警報
災害のおそれが高い状況			
警戒レベル3相当 (警報)	レベル3 氾濫警報	レベル3 大雨警報	レベル3 土砂災害警報
災害のおそれあり			
警戒レベル2 (注意報)	レベル2 氾濫注意報	レベル2 大雨注意報	レベル2 土砂災害注意報
気象状況悪化			
警戒レベル1	早期注意情報		
今後気象状況、悪化のおそれ			

学校の臨時休業の判断は？

市立小中学校の臨時休業判断は、新しい防災気象情報に基づいて、各校で行います。詳細は市ホームページ (☎ 176722) で確認できます

避難情報とは？

高槻市が住民に向けて発令。 住民がとるべき行動を促すもの



自分に当てはめて、避難行動にすぐ移れるようになりましょう

市が防災気象情報などを参考に発令。外水氾濫は6つの河川ごと、土砂災害は対象地域ごとに発令され、住民に向けて、避難行動を呼びかけます。避難情報が発令されたら、ハザードマップや市ホームページなどで詳細を確認し、警戒レベル4までに必ず避難しましょう。



ニュースでは「対象河川」「避難情報」「警戒レベル」などの情報がまとめられ報道されています。

避難情報の種類

発令する避難情報	警戒レベル	相当する防災気象情報 (避難情報の発令は自治体が判断)	住民がとるべき行動
緊急安全確保	警戒レベル5	● 氾濫特別警報 ● 大雨特別警報 ● 土砂災害特別警報	命の危険 直ちに安全確保 自宅や近隣の少しでも高い場所に移動 崖から離れた場所に移動
警戒レベル4までに必ず避難			
避難指示	警戒レベル4	● 氾濫危険警報 ● 大雨危険警報 ● 土砂災害危険警報	危険な場所から全員避難 市が開設する避難場所へ 安全な親戚・知人宅などへ 安全を確認し自宅の浸水しない上階などへ
高齢者等避難	警戒レベル3	● 氾濫警報 ● 大雨警報 ● 土砂災害警報	危険な場所から避難に時間を要する人は早めに避難 市が開設する避難場所へ 安全な親戚・知人宅などへ 安全を確認し自宅の浸水しない上階などへ

強い降雨が夜間から明け方に発生すると予測される場合、夕刻時点で発令する場合があります

発令後の市の動き

- ・ 防災行政無線、ホームページやSNSなどで呼びかけ
- ・ 警戒レベル3以上で市の避難場所開設 (台風の接近など状況に応じて、避難情報の発令前でも避難場所を開設する場合があります)

避難先の選択肢はいろいろ 状況に応じて判断を



市が開設する避難場所の他にも、ホテルや知人宅なども避難先となります。また、一定の条件が整えば、在宅避難も可能です。複数の選択肢を持っておくことも備えになります。

我が家の避難行動を決めていますか？

家族全員いるときに避難するとは限りません。どんな状況でも避難できるよう、家族で避難行動を話し合い、認識を共有しましょう

地域の輪でみんなで避難

☎ 002181

荒天時の単独行動は危険を伴うので、早期避難が重要です。いざというときは近所で声を掛け合って集団で避難しましょう。

また、高齢者や障がい者など、災害が発生したときなどに自力で避難することが難しく、手助けを必要とする人(要援護者)を地域で支える仕組みがあります。詳しくは、地域共生推進室 (Tel 674-7162) へ。

03 備蓄 × 情報収集

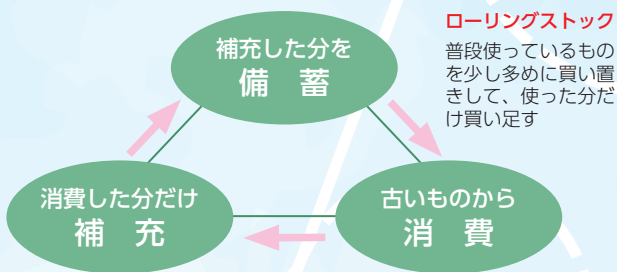
必要な備蓄をそろえておこう

各家庭で想定した避難行動のパターンを元に、家族人数分の必要な備蓄を日頃からそろえておきましょう。

非常持ち出し品（避難場所に行く場合）

- 持ち運びしやすいようにリュックサックなどにまとめる
- 現金も準備（公衆電話や停電時の買い物用）
- 乳児や持病のある人などの食事や薬、衛生用品は数量に余裕をもって準備
- 電池はあると何かと便利（懐中電灯やラジオ）

非常持ち出し品は
取り出しやすい場所に



非常備蓄（在宅避難の場合）

- ライフライン（水道、電気、ガス、通信など）が使えないことを想定した生活用品や電源の準備を
- 長期間の孤立を考慮した飲料水や食事、トイレ用品の確保
- ローリングストック（左図）による備蓄も有効



情報収集には「高槻防災」がお勧め

いつ、どこに避難するか判断するためには、素早く正確に情報を入手することが重要です。

防災ポータルサイト「高槻防災」を利用すると、スマホのホーム画面から災害時にすぐアクセスできて便利です。



【アクセスできる情報】

- 市ホームページ
- 市公式LINE
- 市防災情報X
- 緊急災害情報
- 水害・土砂災害ハザードマップ
- 気象・防災情報
- 地震ハザードマップ
- 防災ハンドブック など

一人一人の平時の備えが街全体を強くする

市は、平成30年の大阪府北部地震や台風第21号などの自然災害を経験し、危機管理室を中心に、全庁一丸となって「強靱なまちづくり」を進めています。しかし、実際に災害のおそれが高まった状況下では、「いつ・どこに逃げるか」などを各家庭で判断し「命を守る行動」をとる必要があります。少しでも被害を少なくするためには、一人一人が今回ご紹介した3つのポイントを理解し、平時から備えておくことが重要です。

4月から供用を開始した危機管理センターでは、災害に関わる情報を集約して災害対策を決定し、避難情報などを適時市民の皆さんにお伝えします。加えて、VR（バーチャルリアリティ）映像を用いた災害疑似体験などさまざまな防災啓発・研修も7月からスタートする予定です。

今後とも地域の防災力向上に向け、市民の皆さんのご理解・ご協力をお願いします。

